

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(8月18日～8月24日)

2018年8月28日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領はルマス首相以下、高官人事を大幅に刷新(8月18日)
- ロシアとの首脳会談(8月22日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●首相・閣僚・高官人事

8月18日、ルカシェンコ大統領は首相・閣僚・高官の人事を刷新した。

役職	氏名	前職
首相	セルゲイ・ルマス	国営「ベラルーシ開発銀行」頭取
第一副首相	アレクサンドル・トウルチン	閣僚会議官房長
副首相	イーゴリ・リヤシェンコ	国営「石油化学コンツェルン(ベルネフチェヒム)」総裁
副首相	ヴラジーミル・クハレフ	国家統制委員会副委員長
副首相	イーゴリ・ペトリシェンコ	駐露大使
建築・建設大臣	ドミトリー・ミクリヨノク	ミンスク市資産形成部部长
産業大臣	パーヴェル・ウチュピン	経済省次官
通信・情報化大臣	コンスタンチン・シュリガン	機動分析センター副センター長
経済大臣	ドミトリー・クルトイ	経済省第一次官
国家軍需産業委員会	ロマン・ゴロフチェンコ	前 UAE 大使

(8月18日付大統領サイト)

●ロシアとの首脳会談

8月22日、ルカシェンコ大統領はロシアのソチでプーチン露大統領との両国首脳会談を行った。プーチン露大統領は、ロシアとベラルーシの二国間関係だけでなく、両国がともに取り組んでいる統合や寄り広範な国際的な問題といった国際的な問

題についても協議できることを嬉しく思う旨述べた。ルカシェンコ大統領は、両国間にはすぐに解決できる問題も長らく解決していない問題もあるが、ここ最近新しい問題は生じていないとした上で、こうした問題を両国首脳以外の誰かが解決してくれることはない旨述べた。

(8月22日付大統領サイト、ベラパン通信)

【内政】

●大統領府長官による新政府に対する訓示

8月20日、コチャノヴァ大統領府長官はルマス首相以下新政府に対し、教書演説、全ベラルーシ国民会議、大統領と関係高官との会合の際等に出された大統領からの指示を遂行する点で、大統領府と政府は連携して成果を出さなければならない旨述べた。同長官は地方の発展に関し、現在農村部や各州都の開発、人口5万～8万人の中都市に関する取り組みが進められていることに触れた上で、各都市や地区の企業が効率的に運営して、その都市や地区の住民が地元で雇用があることを実感できるようにしなければならない旨述べた。

訓示後、ルマス首相は、政府の課題は既に文書化されているため、新たな政府指導部に既に下された決定の見直しや革命的な転換を期待すべきでない旨述べた。また同首相は、ルカシェンコ大統領が新閣僚を任命するあたり、規律、誠実さ、結束といった事柄に特に言及し、国民の福祉の増進を特に強調していた旨述べた。

(8月20日付政府サイト、ベラパン通信)

●非政府系労働組合代表に対する裁判

8月24日、ミンスク市ソヴィエト地区裁判所は非

政府系の労働組合「REP」のフェディニチ代表及び同ミンスク市支部コムリク支部長に対し、財産の没収を伴わない4年間の自由制限刑を宣告した。両名は判決を不服として控訴する旨述べた。両名は脱税、外貨規制に関する法律違反、外国からの無償資金援助の受取と利用に関する大統領布告違反で告発されていた。また、同判決に対して裁判所前で抗議活動を行っていた未公認野党「ベラルーシ社会民主党(国民のグラマダ)」スタトケヴィチ代表ら20名の活動家が拘束された。

(8月24日付ベラパン通信)

●非政府系メディア創業者の急逝

8月23日、ベラルーシの非政府系メディア「ベラパン通信」及びインターネットニュースサイト「Naviny.by」の創業者であるアレシ・リパイ氏が53歳で急死し、26日に葬儀が行われた。

(8月23日付ベラパン通信)

【外交】

●新しい在ベラルーシ米国臨代の着任

8月17日、在ベラルーシ米国大使館は、ムーア臨時代理大使が着任した旨発表した。同臨代は、在アルバニア及び在トルコ米国大使館で勤務した他、ミンスク着任直前には、國務省南欧局副局長として対トルコ・ギリシア・キプロス関係を担当していた。

(8月17日付米国大使館サイト、インターファクス・ザーパド通信)

●新しいロシア大使の任命

8月24日、プーチン露大統領は、沿ヴォルガ連邦管区バヴィチ大統領全権代表を駐ベラルーシ大使兼大統領特別代表に任命する大統領令に署名した。同日、同大統領はバヴィチ新大使と会談し、ベラルーシは歴史・民族・言語・経済の各面で特別な関係にある隣国であり、集団安全保障条約機構(CSTO)、ユーラシア経済同盟(EAEU)、連合国家の加盟国でもあることを踏まえ、外交活動だけでなく経済分野でも、大統領特別代表としてロシアの国益を前面に出すよう訓示した。同大使は、ベラルーシはロシアにとって地政学的また軍事的に

最も重要な同盟国であるとともに、経済的にも最も大きなパートナー国である旨述べた。

同日、ベラルーシ外務省グラス報道官はバヴィチ次期駐ベラルーシ露大使に露大統領特別代表の地位が付与されたことに関し、ベラルーシ・ロシア両国の関係が特別かつ充実しており、高いレベルにあることを裏付けるものである旨述べた。

(8月24日付ベラパン通信)

【治安・軍事】

●アゼルバイジャン国防次官の来訪

8月21日から24日にかけて、アゼルバイジャン国防省サディコフ次官兼軍参謀総長一行がベラルーシを訪問した。23日、同次官はラフコフ国防大臣と会談した。席上、二国間の軍事協力の現状と今後の見通しにつき肯定的に取り上げられ、同次官の今次訪問の総括が行われた。

(8月23日付国防省サイト)

【経済】

【国内経済】

●医薬品の小売価格登録制度の導入

8月22日、ルカシェンコ大統領は、医薬品の価格登録に関する大統領令第345号に署名した。同大統領令によれば、2018年から2020年にかけて、医薬品メーカーが、がん及び心血管系疾患の治療に用いられる医薬品の最高価格を登録することが義務化される。

(8月22日付ベラパン通信)

●自由経済特区の領域拡大とインフラ整備に関する大統領令の修正

8月22日、ルカシェンコ大統領は、自由経済特区に関する既存の大統領令を修正する大統領令第346号に署名した。同大統領令では、モギリョフ、ヴィテプスク、ミンスク、グロドノの各経済特区の領域拡大につき規定されている。また同大統領令により、各経済特区でのインフラ整備にあたって融資を利用することができるようになり、施工者として各経済特区事務局以外の企業を指名できるようになった。

(8月22日付大統領サイト、ベラパン通信)

【統計・その他】

●上半期のロシアからの石油製品輸入：前年同期比 1.5 倍

国家統計委員会によれば、本年上半期、ベラルーシはロシアから 909 万トンの原油を 34 億ドルで、101 億 m³の天然ガスを 13 億ドルで、210 万トンの石油製品を 8 億ドルでそれぞれ輸入した。原油及び天然ガスの輸入量は昨年上半期から変化がないものの、ロシアからベラルーシへの石油製品輸入は数量ベースで 49.4%増加した。

ロシアでは本年第 4 四半期からベラルーシ向け石油製品の輸出を制限する決定が準備されており、ベラルーシ側で必要とされる場合にのみ石油製品の輸出は再開されるものの、その際にベラルーシ側はロシアからの石油製品輸入が必要であることを示す根拠をロシア側に提示しなければならないとされている。

(8 月 20 日付ベラパン通信)

●上半期の製品輸出額：163 億 5,000 万ドル

国家統計委員会によれば、上半期の製品の輸出は総額 163 億 5,000 万ドルで、前年同期比 26 億 6,000 万ドル増。製品輸出の増加は、鉱物製品と貨物自動車の輸出が前年同期比 13 億 5,000 万ドル増加したことに伴うもの。

本年上半期の製品輸出で、前年同期比で金額ベースでの伸びが大きな品目は、石油製品 27.7% (7 億 3,060 万ドル)、貨物自動車 49.5%(2 億 2,140 万ドル)、カリウム肥料 14.8%(1 億 6,530 万ドル)、コールタール蒸留製品 1100%(1 億 2,540 万ドル)、原油 39%(1 億 1,140 万ドル)。

(8 月 21 日付ベラパン通信)

●ベラルーシ開発銀行による中小企業支援

8 月 21 日、国営「ベラルーシ開発銀行」は、本年上半期に同行が提携銀行と共同で、国内の中小企業による 812 のプロジェクトに対し、総額 1 億 1,980 万ルーブル(約 6,024 万ドル)の融資を提供した旨発表。主な支援分野は、製造業、農業、林業、水産業、女性起業家によるビジネスの支援等。

(8 月 21 日付ベラパン通信)

●上半期のコンピュータによるサービスの輸出：前年同期比 36.8%増

国家統計委員会によれば、本年上半期のコンピュータによるサービスの輸出は前年同期比 36.8%増の 7 億 1,910 万ドル。サービスの輸出全体に占めるコンピュータによるサービスの輸出の割合は 17.3%(前年同期 14.8%)本年上半期のコンピュータによるサービスの輸入は 6,090 万ドル。

(8 月 22 日付ベラパン通信)

(了)